

1章 ¹⁻² 私たちの間で成し遂げられたことども ¹⁾ について、最初からの目撃者たち ²⁾ とみ言葉に仕えるようになった者たち ³⁾ が私たちに伝えてくれたとおりに ⁴⁾、多くの人々が物語 ⁵⁾ にまとめあげようと手をつけたのです。³ はじめから ⁶⁾ すべてを詳しく調べた ⁷⁾ 私もまた、テオピロ閣下 ⁸⁾、あなたに順序だてて ⁹⁾ お書きすべきと思いました。⁴ それは、あなたの学ばれたことがら ¹⁰⁾ が確かであることを知っていただきたいためです。

訳注

- 1) イエスの生涯と教え、そして死と復活。「私たちの間で」というのは、イエスの生と死と復活によって「私たち」のための救いの業が成就したと信じるキリスト者たちを読者として想定していることを示唆する。
- 2) 以下に記す福音書の記事の多くはイエスと同時代に生きた目撃者たちの直接的な証言に遡る、という著者の主張。こうした点に注目した福音書研究に R・ボウカム『イエスとその目撃者たち』（浅野淳博訳、新教出版社、2011年）がある。一般向けには R・ボウカム『イエス入門』（山口希生・横田法路訳、新教出版社、2013年）。
- 3) ログス「み言葉」はイエス・キリストとその使信にあらわされた神の啓示。つまり「イエス・キリストの福音」。ルカ文書に繰り返される（4：22.32.36、5：1他、使4：29、6：4、8：4他）。したがって、「み言葉に仕える者」とは「福音」の証人として生きるキリスト者のこと。使26：16、Iコリ4：1など参照。
- 4) 著者がそれ以前の著作を参考にして新たな書物をまとめた、といった内容の序文は、旧約聖書続編『第2マカバイ記』（2：19以下）、『シラ書』などにみられる。ルカ福音書の著者は、マルコ福音書に加え、マタイ福音書と共通のイエスの「言葉資料」（いわゆる Q 資料）と著者特有の資料を用いて福音書をまとめあげた。
- 5) diégēsis「物語」は新約聖書中ここだけに出る語。ただし、動詞 diégéomai「話す、物語る」はルカ9：10、使9：27他に用いられる。
- 6) アノーテンの原意は「上から」。使26：4参照。ここでは「新たな視点から」といった含みがあるか。
- 7) 「調べる」は「追う」が原意。「詳しく」とは慎重に、注意深く。
- 8) 「テオピロ閣下」については講義本文を参照。
- 9) ことがらの順序は時間的順序とは限らない。
- 10) ログイ「ことがら」は「み言葉（複数）」とも訳せる。

献呈の辞

ルカ福音書は献呈の辞をもってはじまります。献呈の辞は、新約文書中、ルカ福音書と使徒記以外にはみられません。この種の献呈の辞が広く行われていたことは、たとえば『アピオンへの反論』と名づけられたヨセフスの著作（ユダヤ民族の歴史の長さを弁証した作品）にみることができます。それはエパフォロディトという人物に献げられ、この人物にもルカ福音書のテオピロと同じ称号（krátistos 「閣下」）が付されています。

当時の慣習によれば、書物を献呈された人物には、その写本をいくつも作成して広めるといふ、費用のかかる役割が期待されていました。したがって、書物の献呈は個人的なことがらではなく、むしろ献呈された著作がひろく読まれることを前提としていました。ルカ福音書もそうであったでしょう。

ルカ福音書が献呈されるテオピロはギリシア語でテオフィロス (Theóphilos)、「神 (theós) の友 (phílos)」という意味です。この人物はルカ福音書と使徒記の献呈の辞（使一 1）以外には知られていませんので、読者として異邦人信徒を念頭においた架空の人物であった可能性も否定できません。「閣下」と訳した krátistos（原意は「最強の者」）はユダヤ総督の称号としても用いられます（使 23:26 他）。これを敬称として理解し、「敬愛するテオフィロさま」（新共同訳）、「尊敬するテオピロ殿」などといった訳もありえます。

著者について

ルカ福音書が使徒記と同一の著者によって書かれたことは、使徒言行録一章 1 節から明らかです。しかし、著者は自分の名前を明かしません。他の福音書でも、その点は同じです。著者よりも、記された内容が重視されたのです。

ルカ (Loukās, Loukianós ないし Loukios の短縮形) という名の人物はピレモン書 24 節、コロサイ書四章 1 節（「愛する医者ルカ」）、II テモテ書 4 章 11 節にパウロの同労者として言及されています。このルカを福音書の著者とする伝承は二世紀に遡ります。「パウロの同伴者ルカもパウロの述べた福音を書き記した」というエイレナイオス（130 年ころ～202 年）の証言が三世紀末のエウセビオス『教会史』（5・3・8）に伝えられました。『ムラトリ正典目録』（2 世紀末、最近では四世紀とも）にも「ルカによる第三の福音書。このルカは医者で、キリスト昇天後、パウロが同伴者として連れていた。…… 彼自身は肉において主を見なかった」と記されています。

これらの伝承に基づき、第三福音書は伝統的に「ルカ（による）福音書」と呼

ばれるようになりました。しかし、パウロの「同労者」であったルカがじっさいにルカ福音書を著したのかとなりますと、これを疑問視する研究者も少なくありません。パウロの演説を何度も記す使徒記にパウロの信仰義認論が影をひそめること、ルカ文書とパウロ書簡の間に必ずしも思想の一致がみられないことなどが指摘されます。では、ルカ福音書の著者（以下、便宜的に「ルカ」と記します）はどのような人物だったのでしょうか。

彼は洗練されたギリシア語を駆使できただけでなく、70人訳ギリシア語聖書にも精通していました。それは、第一に、彼がヘレニズム・ローマ世界で教育を受け、ユダヤ教にも通暁する知識人であったこと、第二に、ユダヤ教に共感を抱く異邦人であったろうこと、そして、第三に、イエス・キリストの福音を信じ、キリスト信徒になったこと、などを示しています。「神を敬う/畏れる者」と呼ばれた異邦人がキリストの福音を受容した事例が使徒記に繰り返されますが、そこに著者ルカの体験が重ねられているのかもしれませんが（使 10:1 以下、13:16 以下、16:14 以下、その他）。

読者について

以上のことから、ルカ福音書は読者として「異邦人キリスト者」を念頭においていたと推測されます。じっさい、マルコ福音書やマタイ福音書に見みられるアラム語表現がルカ福音書では省略されます（マコ 10:51「ラブーニ」、マコ 15:22、マタ 27:33、ヨハ 19:17「ゴルゴタ」、マコ 5:41「タリタ・クミ」）。さらに、ルカが意図的に省いたとみられるイエス伝承のなかに、ユダヤの宗教慣習を前提にしたものが目立ちます。たとえば、自分に反感を持つ兄弟とは、祭壇に供え物をする前に、和解せよ（マタ 5:23 - 24）、エルサレムにかけて誓うな（同 5:36）、といったイエスの言葉はルカ福音書では省かれますし、穢れに関する論争（マコ 7:1 以下、マタ 15:1 以下）もルカ福音書は伝えていません。

成立時期

マルコ福音書（原マルコ）を資料としていること、ローマ軍によるエルサレム破壊（紀元 70 年）を知っているらしいこと（21:20-24 参照）などから、成立時期は 70 年以後と考えられます。他方、同じルカによる使徒記はドミティアヌス帝晩年の大迫害（九五年）を知りません。したがって、ルカ福音書は紀元 80 年頃に記されたとみられましょう。

献呈の辞にみる著者の福音書の特色

「献呈の辞」には、ルカ福音書を記した著者の主張が込められています。それ

は次の四つにまとめられましょう。

(一) ルカ福音書は目撃者による証言や信徒が伝えた伝承に基づく。

(二) 同じような書物は他にも多く書かれたが、ルカ福音書はそれらを調べ直して新たに構成し直した。

(三) ルカ福音書を新たに記した最大の目的は、テオピロ（および、この書の読者たち）がそれまでに学んできたこと、すなわちイエス・キリストによって実現した救いを、あらためて、確かなものと知るようになることにおかれている。

(四) ルカ福音書は、約束された救いの確かさは「私たち」の信仰ではなく、あくまでもイエスの出来事にある、ということを示そうとする。

要するに、ルカ福音書は「私たちの間で成し遂げられたことども」すなわちイエスの出来事を通して、神がわれらのために実現してくださった救いの福音を記した書物だということです。

思想的特色

1953、ドイツの新約学者コンツェルマンが『時の中心—ルカ神学の研究—』（新教出版社、1965年）を著し、ルカの神学の基本は「救済史」であると論じました。ルカ福音書と使徒言行録には、救いが約束された「イスラエルの時」、救いが実現し、古い時が終わり、新しい時が始まる「時の中心」であるイエスの活動の時、そして聖霊がはたらき、全世界に宣教がなされて終末にいたる「教会の時」という三つの時代が意識されていて、それらが救済史的な歴史の枠組みに位置づけられている。そこにルカの神学思想の特色がある、とみたのです。

以後、このようなルカの神学思想をめぐる議論が重ねられ、コンツェルマンへの批判的見解も示されてきました。歴史の中心とみた「イエスの時」は教会の時と重なっている。ルカは「終末」を遠い未来にではなく、現在という時のなかにもみている。ルカの神学思想の重点は救済史というより、「神の国」もしくは「キリスト」におかれている。こういった批判の数々です。

これから、こうした点をも考慮に入れながら、ルカ福音書を学んでゆきましょう。（2014年4月13日聖書講義の補正）